

**Promotion Program for Young Scientists and COE
for Innovation of Marine Science and Technology**

イノベーティブマリンテクノロジー研究者育成 始動!

● 目 次 ●

本プログラムの概要

高知大学 理事(研究担当)
副学長・機構長 小槻 日吉三 2

高知大学 若手研究者評価支援機構 委員会等名簿 3

テニュアトラック教員 着任への思い

特任講師(予定) 片岡 正典 4
特任講師 寺本 真紀 4
特任助教 小野寺 健一 4
特任助教(予定) 三浦 収 5
特任助教(予定) 椿 俊太郎 5
特任助教(予定) Dana Ulanova 5

行事予定 6



本プログラムの概要

高知大学 理事(研究担当)・副学長
若手研究者評価支援機構 機構長

小槻 日吉三

Hiyoshizo Kotsuki



高知大学は、平成22年度文部科学省・科学技術振興調整費による若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業として、「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」(平成22年度～平成26年度)プログラムの採択を受けた。若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業とは、若手研究者を育成するためのキャリアパス整備を目的とした文部科学省の政策誘導型プログラム(年約2億)であり、平成18年度から昨年度までに全国で36拠点が選ばれ、今年度は高知大学を含む6研究機関が採択を受けている。

高知大学が提案したプログラムの骨子は、海洋科学研究における人的資源を結集した“イノベティブマリンテクノロジー研究拠点”の形成にある。これを実現するために、新規若手研究者採用制度により若手研究者をテニユア・トラック教員として配置し、新たな分野横断型海洋科学研究分野を開拓・展開できる海洋科学研究者を育成し、世界最高水準となる新領域海洋科学研究を推進することとしている。

今回、高知大学が採択を受けた背景には、海洋科学研究に必須の研究基盤や研究体制が整備されていること、並びに、恵み豊かな太平洋黒潮流域圏に位置する高知県の地理的優位性があると評価される。ご存知のように、我が国は、国土面積に比して極端に長い海岸線(35,000 km, 世界1位)と経済水域(世界6位)を有し、海洋資源開発・海洋環境保全技術の推進を基盤とした海洋立国の実現は、我が国の継続的発展に関わる最重要施策となっている。このような状況下、平成19年4月27日「海洋基本法」が公布され、同7月20日に施行となったことは記憶に新しい。その第一章第一条には、「国際的協調の下に、海洋の平和的かつ積極的な開発及び利用と海洋環境の保全との調和を図る新たな海洋立国を実現することが重要である」と謳われており、本プログラムもこのような国家施策の趣旨に沿った内容となっている。

奇しくも本学では、平成22年4月からスタートした第二期中期目標期間中の研究目標で、“高知県を中心とした南四国や近縁の黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な研究を推進し、そこで培われた知見やノウハウや人材を国内外の諸地域にも敷衍させることにより、地域社会、近隣社会と国際社会に貢献する”と定め、研究上のキーワードとして、「海」、「環境」、「生命」の3つを掲げている。今回のプログラムを推進することは、このような研究目標を達成する上でも大きな原動力となる。

本プログラムでは、若手研究者を育成するための体制作りとして、「若手研究者評価支援機構」を設置し、公正で透明性のあるテニユアトラック制度を導入することとしている。具体的には、若手研究者を国際公募により初年度に6名、4年目に3名、それぞれテニユア・トラック教員として採用し、3年目終了時まで、研究環境や人材育成プログラム等の諸制度を整備する計画である。中間評価は外部委員を含む評価委員会を実施し、研究の進捗や方向性について積極的な助言を行い、評価項目に関して改善すべき点があれば指示・指導を行うこととしている。また、優れた業績を達成した研究者については、中間評価以降にテニユア職採用審査を実施することとしている。このように、若手研究者の自立的な研究に必要な環境整備を促進することにより、テニユア・トラック制度の全学的な「普及」と「定着」に向けた取組みが実を結ぶことになる。

本プログラムで採用されるテニユア・トラック教員は、海洋の開発・利用に関する研究を領域横断的に推進するフロントランナーと位置づけられる。その活動の中から、新たな発想や自由な展開力を習得し、イノベーションを絶え間なく生み出せる、海洋科学・海洋生命工学研究者が多数輩出できるものと期待される。さらに、テニユア・トラック教員と異分野研究者との有機的な連携や、国内外の研究者・産業界の有識者らと有形無形の協力支援体制を構築することで、世界的な新領域海洋科学研究拠点の形成が可能となる。将来的には、“イノベティブマリンテクノロジー研究拠点”を核として、例えば、理学部と農学部を横断するような学部(海洋生命工学科)や大学院(海洋生命工学専攻)等の設置に向けた教育組織改革へと発展する可能性もある。本プログラムの推進により、高知大学固有の海洋科学研究分野を確立し、世界を見据えた研究者や高度専門職業人を連綿と育成するシステムを構築していきたいと考えている。

本プログラムが完了する頃には、「高知大学といえば海、海といえば高知大学」というキャッチフレーズが不動の位置を獲得している必要がある。

本プログラムに関わる若手研究者の活躍に期待していただくとともに、プログラムへのご支援とご協力、並びにご指導とご鞭撻をよろしくお願ひ致します。



テニユア・トラック教員 着任への思い

平成23年4月1日 着任予定



片岡 正典

Masanori Kataoka

(特任講師・朝倉キャンパス・合成化学)

この度は高知大学イノベティブマリンテクノロジー研究者育成事業において素晴らしい研究環境を与えていただいたこと大変感謝しております。本事業では、これまでに培ってきた核酸関連化合物の合成技術を活かして海洋生物の生産する有用生理活性物質の大量供給をおこないます。また、それら生理活性物質や核酸関連化合物を利用して海洋生物の機能探索へと展開し、海洋科学の発展に貢献したいと考えております。高知大学において海洋科学研究に携わってこられた先生方にご助言を賜り、他のテニユア・トラック教員と切磋琢磨し、南国土佐の雄大な自然に育まれた唯一無二の海洋科学を世界に発信すべく尽力する所存です。

平成23年2月1日 着任



寺本 真紀

Maki Teramoto

(特任講師・岡豊キャンパス・海洋深層水科学)

私は海洋性微生物を扱った研究を数年行ってきましたが、また、こういった研究を自分の裁量で行うことができる機会が戴けて大変嬉しく思います。海の表層の環境からは得られず海の深層の環境から得られるという微生物で、役に立つものが見つければ面白いと思います。他の研究者の方(国内外問わず)とも上手く連携して研究を発展させることが出来、いろいろ勉強させて頂ければ嬉しいです。是非、高知大学が海洋生命科学の分野で先陣を切り続けていけるよう貢献させて頂ければと思います。また、講義など教育においても、分かりやすく興味を持てるよう工夫しながら貢献させて頂きたいと思います。私の様々な場所(国の研究機関や、海外の大学、民間企業など)での勤務経験も、生かせれば良いなと思います。高知の美味しいものを食べながら高知の生活に早く慣れ、仕事のペースを徐々に速めて行きたいと思います。宜しく願い申し上げます。

平成23年3月1日 着任



小野寺 健一

Ken-ichi Onodera

(特任助教・岡豊キャンパス・海洋天然物化学)

初めまして。今回ご縁がありまして高知大学イノベティブマリンテクノロジー研究者育成特任助教に任命されました小野寺健一です。この様な機会を頂きましてありがとうございます。私は天然物化学という研究分野を専門にしまして、それは生物が生産する有用物質を分離し化学構造を決めるという研究です。私は特に海に興味がありますので、そこに生息する渦鞭毛藻類を主体とした海洋生物の有用物質を探索できればと考えております。海とのかかわりの深い高知県ですのでその特色を生かした展開ができればと考えております。力の限り頑張りますのでどうかよろしく願いいたします。



平成23年4月1日 着任予定

三浦 収

Miura Osamu

(特任助教・物部キャンパス・生物相互作用)



「異なる分野の融合こそ新しい発見を生み出す原動力である」これは大学院時代の恩師、東北大学・千葉 聡先生の言葉です。この言葉に私は深い感銘を受けました。しかし複数の異なる分野の研究理念や手法を習得し、それらを融合させるのは並大抵のことではありません。これを可能にしてくれるのは、異なる専門性を持つ研究者どうしの交流だと私は思います。私が海産巻貝の進化生態学の研究に打ち込んでいたとき、新しい突破口を与えてくれたのは、アメリカから来た寄生虫学者のMark Torchin先生でした。Torchin先生は私の目の前で巻貝を解剖し、その体内に多くの寄生虫が住んでいることを教えてくれました。これを機に私は寄生虫という新しい研究材料に接し、寄生虫学の視点を進化生態学研究に取り入れる努力をしてきました。私が今一番楽しみにしていること、それは高知大学で新しい人と会うこと、そして新しい考えやアイデアと出会うことです。人との出会いを大切に、そこから多くのことを吸収し、新しい発見へと結び付けていきたいです。また、その様な考えを次世代の研究者へと伝えていきたいと思っています。

平成23年4月1日 着任予定

Dana Ulanova

ダナ ウラノバ

(特任助教・岡豊キャンパス・ケミカルバイオロジー)



I applied for a position of a tenure track position as I found the field of research interesting and inspiring. I am very grateful for the opportunity to work on this project. My research background is antibiotic production in actinomycete, so I am new in a field of algae natural compounds. I understand that I need to learn a lot about biology of dinoflagellates as well as about genetic manipulation of them. I am looking forward to this challenge as to a new exciting opportunity in my research carrier. I want to work hard and apply my knowledge and skill to conduct a good research and be a good teacher at Kochi University.

平成23年4月1日 着任予定

椿 俊太郎

Shuntaro Tsubaki

(特任助教・朝倉キャンパス・グリーンケミストリー)



京都大学大学院農学研究科より参りました椿俊太郎です。この度は高知大学におけます「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」のテニュア・トラック教員に採用していただき、大変光栄に存じ上げます。今後の高知での研究生生活に大きな期待と興奮を覚えるとともに、強い責任を持って仕事に取り組むべく身の引き締まる思いしております。また、メンター教員の先生方とのディスカッションや他のテニュア・トラック教員の先生方との切磋琢磨を大変楽しみにしております。

本学ではマイクロ波加熱を中心とした水産バイオマスの再資源化技術の開発に取り組みます。地球温暖化防止やエネルギー・資源セキュリティの観点から、バイオマスを中心とした再生可能資源の利用が大きな課題となっています。これまで私は陸上植物由来バイオマスの有用化合物への変換に携わって参りましたが、水産バイオマスについては陸上植物に比べて未開拓部分が多くあります。海洋に囲まれた日本には豊富な水産バイオマス資源を存在しており、上記課題の解決に大きく貢献できると考えられます。これまで培った技術を発展させ、将来の資源循環型社会の構築に寄与していきたいと存じます。



高知大学 若手研究者評価支援機構 委員会等名簿

(2011.3.7現在)

■若手研究者評価支援機構会議

| | | |
|----|-------|------------------------------|
| 議長 | 小槻日吉三 | 高知大学 理事 (研究担当)・副学長・機構長 |
| 委員 | 津田 正史 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 教授 |
| 委員 | 柳澤 和道 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 教授 |
| 委員 | 井上 新平 | 高知大学 教育研究部 医療学系 臨床医学部門 教授 |
| 委員 | 松村 仁 | 高知大学 研究協力部長 |

■若手教員選考委員会

| | | |
|---------|-------|------------------------------|
| 委員長 | 津田 正史 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 教授 |
| 委員 | 深見 公雄 | 高知大学 理事 (教育担当)・副学長 |
| 委員 | 市川 善康 | 高知大学 教育研究部 自然科学系 理学部門 教授 |
| 委員 | 宇高 恵子 | 高知大学 教育研究部 医療学系 基礎医学部門 教授 |
| 委員 | 菅沼 成文 | 高知大学 教育研究部 医療学系 連携医学部門 教授 |
| 委員 | 大島俊一郎 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 黒潮圏科学部門 教授 |
| 委員 (学外) | 松永 是 | 東京農工大学 理事・副学長 |
| 委員 (学外) | 松永 茂樹 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 |
| 委員 (学外) | 大船 泰史 | 大阪市立大学 大学院理学研究科 教授 |
| 委員 (学外) | 塚本佐知子 | 熊本大学 大学院薬学教育部 教授 |
| 委員 (国外) | 金 尚珍 | 韓國海洋研究院 主任研究員 |

■若手教員評価委員会

| | | |
|---------|-------|-------------------------------|
| 委員長 | 柳澤 和道 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 教授 |
| 委員 | 櫻井 克年 | 高知大学 理事 (総務担当)・副学長 |
| 委員 | 富永 明 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 黒潮圏科学部門 教授 |
| 委員 | 本家 孝一 | 高知大学 教育研究部 医療学系 基礎医学部門 教授 |
| 委員 | 受田 藩之 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 生命環境医学部門 教授 |
| 委員 | 岩崎 望 | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 准教授 |
| 委員 (学外) | 松永 茂樹 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授 |
| 委員 (学外) | 大船 泰史 | 大阪市立大学 大学院理学研究科 教授 |
| 委員 (学外) | 阿部 郁朗 | 東京大学 大学院薬学系研究科 教授 |
| 委員 (学外) | 竹山 春子 | 早稲田大学 理工学術院 教授 |

■若手教員支援委員会

| | | |
|---------|----------------|--------------------------------|
| 委員長 | 井上 新平 | 高知大学 教育研究部 医療学系 臨床医学部門 教授 |
| 委員 | SANTOSH, M. W. | 高知大学 教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 教授 |
| 委員 | 松村 仁 | 高知大学 研究協力部長 |
| 委員 | 鈴木 千賀 | 高知大学 若手研究者評価支援機構 特任助教 |
| 委員 (学外) | 池上 良成 | 赤穂化成 (株) 代表取締役社長 |
| 委員 (学外) | 昇 忠仁 | 三井化学 (株) マテリアルサイエンス研究所 所長、研究主幹 |
| 委員 (学外) | 馬場 茂 | ウテラック 代表、テクニカルアドバイザー |
| 委員 (学外) | 小池 晴夫 | シオノギファーマケミカル (株) 特別顧問 |

「イノベーティブマリンテクノロジー研究者育成キックオフ・シンポジウム」のご案内

平成23年

3月10日[木]

高知会館 2F

白鳳の間にて

参加費無料

高知大学
Kochi University

科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進」事業

参加費無料

高知大学 イノベーティブマリンテクノロジー研究者育成 キックオフ・シンポジウム

〔プログラム〕

総合司会：高知大学教育研究部総合科学系 教授 津田 正史

| 時刻 | 内容 | 講師 |
|-------|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:30 | 開会の辞 | 高知大学 学長 相良 祐輔 |
| 13:40 | 来賓挨拶 | 文部科学省科学技術・学術政策局 基盤政策課 |
| 14:00 | 本プログラムの概要 | 高知大学 理事・副学長 小槻 日吉三 |
| 14:15 | 招待講演「東京農工大学の若手人材育成プログラムについて」 | 東京農工大学 理事・副学長 松永 是 |
| 15:20 | 特別講演「マリンバイオテクノロジー：海洋生物成分の利用」 | (財)函館国際水産・海洋都市推進機構推進機構長 東京大学名誉教授 伏谷 伸宏 |
| 16:40 | パネルディスカッション「IMT若手研究者育成プログラムへの期待」 | パネラー：高知大学=小槻 日吉三・深見 公雄・本家 孝一・柳澤 和道 学 外=熊谷 良雄 ((独)科学技術振興機構) 松永 是 (東京農工大学)・池上 良成 (赤穂化成(株)) 櫻井 香里 (東京農工大学・テニミュアトラック教員) |
| 17:30 | 閉会挨拶 | 高知大学 理事・副学長 小槻 日吉三 |

お申込み方法
参加をご希望の方は、お手数ですが氏名・勤務先・所属部署・職名・電話番号・E-mailをご記入の上、件名を「シンポジウム申込み」としていただき、平成23年2月25日(金)までに下記のE-mailアドレスへお申込みください。

連絡先
高知大学 若手研究者評価支援機構 研究推進特別支援室
〒780-8520 高知市曙町2-5-1
TEL: 088-844-8842 E-mail: kk41@kochi-u.ac.jp http://www.kochi-u.ac.jp/imt/

高知大学「イノベーティブマリンテクノロジー研究者育成」ニュースレター

No.1,2
合併号

発行日 平成23年3月7日

編集・発行 高知大学 若手研究者評価支援機構
「IMT研究者育成」編集委員会
(特任助教 鈴木千賀)

問合せ先 高知大学 若手研究者評価支援機構
研究推進特別支援室
〒780-8520 高知市曙町二丁目5-1
TEL 088-844-8842 FAX 088-844-8333
電子メール kk41@kochi-u.ac.jp
ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>

IMT 2011.03